

Y2-27

新人看護師の短期ローテーション研修体験

諏訪赤十字病院

○五味 己寿枝、宮坂 佐和子、小山 泰仙

平成15年に示された新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会報告書では、新人看護職員研修の充実・普及への取り組みが課題として述べられている。それをふまえ、卒後研修が見直され、ローテーション研修を取り入れる施設が増加している。新人看護職員にとって就職初期は、看護が人間の生命に深く関わる職業であることを体験的に学ぶ一方、リアリティショックや役割移行への戸惑いを感じ、無力感を抱きやすい時期でもある。彼らが主体的に学ぶ力を培うためには、個々人が自尊心を高められるような環境づくりが必要である。これまでの実践報告では、新人看護職員がローテーション研修中にどのような時に無力感や戸惑いを感じ、どのような時に満足感や自信を実感しているのか、周囲のスタッフとの関係や新人同士の関係などを含めて詳細に記述した研究はみられない。そこで、新人看護職員の就職初期におけるローテーション研修体験に焦点を当て、新人看護職員が研修体験の意味をどのように捉えているかを、彼らの語りから明らかにすることを目的に研究を行った。研究方法は、半構成面接法を用いた質的記述的研究デザインとした。'09年4月にA総合病院に看護職員として就職し、4月から6月に実施された短期ローテーション研修に参加した看護師の中で、研究に同意の得られた者を参加者とした。面接内容を録音し、データを逐語録とし、目的に合わせてコード化・カテゴリー化し体験を記述した。倫理的配慮として、研究参加の自由意志、プライバシー保護、研究参加の有無が業務に影響しないことを約束し、書面にて参加の同意を得た。本研究の結果から、新人看護師の短期ローテーション研修体験と支援について考察し報告する。

Y2-28

新人看護基礎技術チェックリストの活用について ～現状と課題～

名古屋第二赤十字病院 看護部 教育委員会

○小泉 照代、酒井 登茂子、寺西 美佐絵、
五藤 康子、江口 美智、赤塚 あさ子

【はじめに】厚生労働省による「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」で報告された看護基礎技術は、13領域80項目以上におよび、当院はそれをもとに看護基礎技術チェックリスト（以下チェックリストとする）を作成し使用することにした。しかし、新人全員が1年間で全項目を習得するには、指導者ともに負担が大きい現状があった。そこで、平成20年度新人を対象に実際の習得状況を把握し、今後のチェックリスト活用について検討した。

【方法】1.新人が配属されている23病棟から技術項目毎の習得率をITを活用して把握する。

2.新人全員が全項目習得を100%として習得率を出す。

3.改善点のターゲットングを行う。

【結果・考察】平成21年3月10日現在の習得率は、全体の57.7%であった。病棟別でみると最高93%、最低33%であった。習得率60%以上の病棟は11/23病棟であった。1年間で100%達成は極めて困難であることがわかった。チェックリストを用いた技術評価が困難である理由は、病棟によって経験項目にかたよりのある、評価する時間の確保が難しい等が考えられた。技術項目別では習得率60%以上の項目が多い領域は、環境調整、排泄、活動、清潔、症状、医療安全であった。習得率50%以下の項目が多い領域は、食事援助、創傷処置、与薬、救急救命処置、感染防止であった。感染防止、医療安全、薬剤管理などは、経験に限りがあり知識の確認、伝達のため集合教育の方が効果的、効率的であると考えられる。以上より看護基礎技術習得を促進するためには、チェックリスト運用方法を再検討し、必須項目の選定や集合教育などの実用性を追求することが今後の課題である。